

## 『〈悪女〉の文化誌』 京都橘大学女性歴史文化研究所叢書



編著：鈴木紀子・林久美子・野村幸一郎

出版：晃洋書房

2005年3月30日発行 四六版 2,200円（税別）

女性歴史文化研究所 研究プロジェクト

「文学に見る『悪女』観の形成」研究成果公刊の書

本プロジェクトでは公開研究・研究会を通し、洋の東西と時代、ジャンルを超えて〈悪女〉観がどのような要素をもって、いかなる社会のもとで規定されてきたのか、また、〈悪女〉はどのように描かれてきたのかを、それぞれの視点から考察を重ねてきた。本書は、その共同研究の成果であり、京都橘大学女性歴史文化研究所叢書の第1冊として発刊されるものである。

目次（タイトルと執筆者）

第Ⅰ部 〈悪女〉という表象 —その成立と変遷—

第一章 王朝文学の〈悪女〉—本院侍従を中心に—（鈴木紀子・文学部教授）

第二章 中世の「悪」の観念と〈悪女〉（田端泰子・文学部教授・学長）

第三章 「悪婆」の魅力 —歌舞伎の〈悪女〉—（林久美子・文学部教授）

第四章 前近代中国のいい女と悪い女（蒲豊彦・文学部教授）

第Ⅱ部 疎外者の哀しみ —文学の中の〈悪女〉たち—

第一章 寛一が宮をなじる理由 —尾崎紅葉『金色夜叉』の問題圏—（野村幸一郎・文学部助教授）

第二章 山本禾太郎「窓」と打出二夫人殺し事件 —探偵小説は〈悪女〉をどのように描いたのか—（細川涼一・文学部教授）

第三章 悪と求道 —遠藤周作『深い河』—（辻本千鶴・非常勤講師）

第Ⅲ部 陽光の翳り —ヨーロッパの魔女・悪女—

第一章 西欧における〈悪女〉の作られかた（鎌田明子・文化政策学部教授）

第二章 D.H. ロレンスが描き出す「月の女神」としての「魔女」（杉山泰・文化政策学部教授）